

令和5年度決算 予算決算委員会資料 上下水道局

富山市水道事業会計
富山市工業用水道事業会計
富山市公共下水道事業会計

目 次

- 1 令和4年度決算に関する予算決算委員会の要望事項に
対する処置状況 1 頁
- 2 令和4年度決算に関する監査委員の決算審査意見に
対する処置状況 2 頁
- 3 予算決算委員会出席者名簿 7 頁

様式2 令和4年度決算に関する予算決算委員会の要望事項に対する処置状況

前年度の要望事項	処 置 状 況
<p>【水道事業会計】 【工業用水道事業会計】 【公共下水道事業会計】</p> <p>要望事項なし</p>	

令和4年度決算に関する監査委員の決算審査意見に対する処置状況

質問事項	回 答
<p style="text-align: center;">【水道事業会計】</p> <p>(1)第2次富山市上下水道事業中長期ビジョンについて</p> <p>第2次富山市上下水道事業中長期ビジョンでは、令和4年度から新たに始まった後期計画(令和4年度～令和8年度)においても、前期計画に引き続き、信頼性の高い配水システムの構築や危機管理体制の強化のため、配水幹線の整備と応急給水体制の充実を最重要課題と位置付け、その進捗状況は、一部施策で目標値を下回る結果となったものの、概ね順調に推移している。</p> <p>しかしながら、経営指標を見ると、経営の健全性を示す経常収支比率等が前年度に比べ上昇したものの、施設の老朽化を示す管路経年化率等については、連年、上昇が続いていることが示されており、今後もこれらの指標の推移には一層の注意を払っていくことが必要である。</p> <p>ビジョンの基本理念の実現に向けて、設定する目標値や総務省の示す各種指標を用いて経営状況の把握、計画の進捗管理を行いながら、各種施策が着実に実行されるよう一層努力されたい。</p>	<p>第2次ビジョンでは、3会計あわせて全38項目の具体的な指標を設定し、計画の進捗管理を年度毎に実施しております。</p> <p>このうち、経営方針に基づく各施策の成果目標として水道事業では配水幹線の耐震化率など3項目、下水道事業でも水洗化率など3項目の計6項目の指標を設定しております。</p> <p>水道事業については、管路の布設に支障となる地下埋設物の移設に時間を要したこと等により、一部の成果目標に遅れが生じているものの全体としては、概ね順調に進捗しているものと考えております。しかしながら、今後も資材価格や労務単価の上昇による工事価格の増などが想定されることから、今後とも各種経営指標を用いた、経営状況の的確な把握と事業の適切な進捗管理を行いながら、ビジョンに位置付けた施策の着実な推進に一層努めてまいりたいと考えております。</p>

質問事項	回 答
<p>(2) 今後の企業経営について</p> <p>令和4年度の決算は、前年度に引き続き黒字となったものの収益は減少した。</p> <p>さらに、施設の建設改良事業については、昨今の物価高騰による経費の増加もあり、依然として資金繰りは厳しい状況にある。</p> <p>また、人口減少等により水需要の減少傾向が続く中で、現状以上の利益を確保して事業を存続させていくためには、収益の確保と費用の抑制の両面において一層の取り組みが求められる。</p> <p>水道事業は、市民生活に最も密接したライフラインの一つであり、水道水の安定供給や快適な生活環境を確保するとともに、不測の事態が起きても事業を継続できるよう、自然災害への備えに加え、施設の老朽化対策も重要である。</p> <p>このような状況で、投資においては、回収可能な額と投資額との採算を考慮する視点を持ち、資本的収支が逼迫する中でも事業を維持していくための利益を確保していくことが必要である。</p> <p>昨今の厳しい状況下において、黒字を維持する経営努力は一定程度認められるところであるが、今後は、さらに厳しい経営環境になることを意識し、総務省から示された各種指標を参考にしながら、健全な財政状態を維持するためのあらゆる努力を模索されたい。</p>	<p>今後も人口減少による収入減、物価上昇や、耐震化の推進による費用の増加など、経営が厳しくなる中において、水道事業は、事業に伴う収入を主な財源として独立採算により運営することを経営の基本とする公営企業であることから、令和6年7月に設置した富山市上下水道事業経営審議会において、業務の効率化やコスト削減、利用者(市民)サービスの充実などに加え、需要構造の変化に対応した料金体系のあり方などを中心テーマとして、議論していただくこととしております。</p> <p>上下水道局としては、この審議会でのご意見・ご提言等を十分踏まえ、公営企業として将来的に持続可能な事業経営を目指すことで、市民の重要なライフラインである上下水道を今後も適切に維持管理し、利用者(市民)に対して安全安心なサービスを安定的に提供していくよう最大限努めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、新たな財源確保として、今年度から、水道整備・管理行政が厚生労働省から国土交通省に移管されたことを踏まえて、上下水道事業を一体的に捉えた、耐震化における国の支援制度の創設や拡充を国に対して求めてまいりたいと考えております。</p>

令和4年度決算に関する監査委員の決算審査意見に対する処置状況

質問事項	回 答
<p>【工業用水道事業会計】</p> <p>(1)今後の企業経営について</p> <p>責任水量制を採用していることもあって黒字決算を続けており、安定的な企業経営がなされている。</p> <p>今後も契約企業との情報共有や協議を重ね、施設の老朽化対策である予防保全型の維持修繕に努めるとともに、将来の大規模な施設の改修・改築に向けた取組みについて計画的に進め、引き続き健全で持続可能な事業の推進に努められたい。</p>	<p>第2次ビジョンの期間中においては、施設の改築等を行わず、予防保全型の維持修繕等により対応することとしており、これを徹底することで、トータルコストの縮減に努めてまいりました。</p> <p>しかしながら、将来的には大規模な施設更新が必要となることから、第2次ビジョン期間において、契約企業の将来水需要や、設備投資を含む事業展望などの意向を確認しながら、更新に向けた検討を進めることとしております。</p> <p>なお、令和6年度においては、経済産業省の「工業用水道分野における民間活用促進事業」に応募し、選定されたことから、民間活用における課題やポテンシャル調査を実施することとしておりこの調査結果も参考にしていきたいと思います。</p>

令和4年度決算に関する監査委員の決算審査意見に対する処置状況

質問事項	回 答								
<p>【公共下水道事業会計】</p> <p>(1) 下水道普及促進活動について 令和4年度の水洗化率は、96.7%と前年度に比べ0.2ポイント上昇しており、接続率においても、96.7%と前年度に比べ0.2ポイント上昇している。</p> <p>これは、上下水道局の普及促進活動の強化によるものであるが、接続率の向上を図ることは、安定した事業収益の確保、ひいては経営基盤の強化につながることから、引き続き普及促進活動に取り組まれない。</p> <p>(2) 今後の企業経営について 令和4年度の決算は、前年度に引き続き黒字となったものの収益は減少した。</p> <p>また、企業債の毎年の償還額は依然として高水準にあり、資本的収支不足額を補填した後の損益勘定留保資金残高は前年度と比べ増となったものの、資金繰りは厳しい状況にある。</p> <p>下水道事業においては、今後とも総務省から示された各種指標を参考にしながら、資本的支出が企業経営を圧迫しないよう、事業費の平準化を図り、毎年度計画的に事業に取り組むよう努められたい。</p> <p>また、快適で衛生的な生活環境の</p>	<p>令和5年度の水洗化率については、</p> <table border="1" data-bbox="751 479 1433 618"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>対前年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水洗化率</td> <td>96.7%</td> <td>96.9%</td> <td>+0.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>となっております。</p> <p>水洗化率の向上に向けた取組みとしましては、過去の訪問時のアンケートで接続見込みが高いと区分した未接続世帯について、普及推進員が重点的に戸別訪問を行いました。また、接続意思が低い未接続世帯へは啓発チラシの郵送を行いました。</p> <p>今後とも、各戸の接続見込みや未接続理由に応じた、効果的・効率的な普及活動に取り組む、水洗化率の向上に努めてまいりたいと考えております。</p> <p>今後、人口減少等による下水道使用料収入の減少及び、電気料金の高騰による動力費の上昇や労務単価の上昇等による維持管理費の増加が見込まれますが、施設の耐震化や老朽化対策は喫緊の課題となっております。</p> <p>このことについては、第2次ビジョンでは、投資的経費が企業経営を圧迫しないよう、事業費の平準化を図ることとしており、引き続き、毎年度計画的に事業の推進に取り組んでまいります。</p> <p>加えて、AIシステムなどを活用した新たな技術の調査・研究に継続的に取り組むとともに、実用性が高い技術の導入を図ることにより、効率的かつ効果的に事業を推進してまいりたいと考えております。</p>		令和4年度	令和5年度	対前年	水洗化率	96.7%	96.9%	+0.2%
	令和4年度	令和5年度	対前年						
水洗化率	96.7%	96.9%	+0.2%						

質問事項	回 答
<p>充実を図り、効果的かつ実現性の高い新技術の調査や研究に取り組み、費用節減にも一層注力するなど、経営基盤の強化に努められたい。</p>	<p>また、資金の確保として、経費の節減や国の支援制度の有効活用、発電事業への消化ガスの売却収入の確保などを行うとともに、今後、物価の上昇や、耐震化の更なる推進など多くの資金が必要となることを見込まれるため、収入の確保に向けて、適正な使用料のあり方について検討を進めていくことが必要であると考えております。</p>

予算決算委員会出席者名簿

所 属	出 席 者 名					
	特別職・部長級		部次長級		課長級	
	職	氏 名	職	氏 名	職	氏 名
上下水道局	局長	酒井 正道	次長	井村 孝志		
			次長	山崎 明彦		
			参事	五十嵐 健治 (農林水産部次長)		
			参事	高尾 輝彦 (建設部次長)		
			参事	五十嵐 進		
経営企画課					課長	岸 聡之
					主幹	加藤 暁美
契約出納課					課長	谷島 洋
料金課					課長	山下 達也
給排水 サービス課					課長	新原 寛之
水道課					課長	帳山 誠志
下水道課					課長	井山 哲男
					主幹	金田 英靖 (農村整備課長)
					主幹	沖村 一 (河川整備課長)
上下水道施設 管理センター					所長	安部 正雄
東上下水道 サービスセンター					所長	村田 友康
西上下水道 サービスセンター					所長	工藤 正美
流杉浄水場					場長	大場 角栄
浜黒崎 浄化センター					場長	竹島 寛文
水橋 浄化センター					所長	神代 浩